

小学生バレーボールと中学生以上のバレーボールにおける
 ルール等の違いや取扱い等の相違点

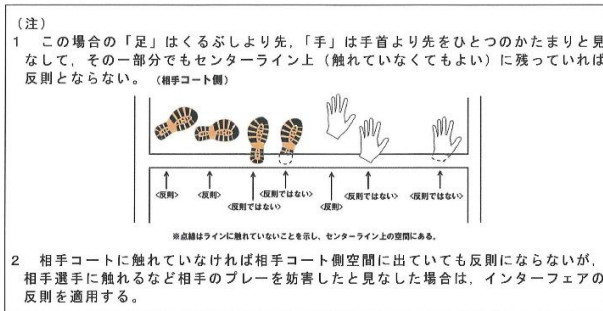
小学生のバレーボールも中学生以上の年代におけるバレーボールも、6人制バレーボールの競技規則をもとにゲームが運営されていくということを常に念頭に置いて、ゲーム及び大会が運営されていかなければなりません。その中で、最も年齢的に下層にある小学生の年代においては、発達段階等に応じて中学生以上の年代のバレーボールとは異なった判定基準等が定められているものがあります。その相違点を以下の表にまとめました。よりよいゲーム運営ができるように、ぜひこの表を参考にいただければと思います。

	小学生	中学生以上
試合開始前	<ul style="list-style-type: none"> コート内の選手のサーブ順の確認 アタックラインからエンドラインに向かってサーブ順にコート中央にサイドラインと平行に並ぶ ※胸の番号を隠さないように 	<ul style="list-style-type: none"> コート内の選手の番号と位置の確認 BR から反時計回りにサーブ順に並ぶ
試合中	<ul style="list-style-type: none"> トスの時にサーブ権を得たチームのサーブ順1番の選手のサーブで試合を始める。 トスでサーブ権を取らなかったチームもサーブ順1番の選手がサーブを打つ ※フリーポジション制で位置のローテーションはしない。 ダブルコンタクト(ドリブル) 一連の動作の中においてボールが身体の2か所以上に連続的に接触しても反則ではない。(1, 2, 3回目すべての接触が対象) ※体力(筋力)を考慮した。 サブスティテューション(メンバーチェンジ・選手交代) 各セットごとに最大12回できる。 ※多くの児童にゲームを経験させる目的で ペネトレーションフォルト(パッシングザセンターライン) 片手(両手)の手首より先の部分、または片足(両足)の足首より下の部分がセンターラインを完全に越えて相手コートに触れたら反則となる ※上記以外の身体の全ての部分は相手コートに触れると反則になる。 	<ul style="list-style-type: none"> トスの時にサーブ権を得たチームのサーブ順1番の選手のサーブで試合を始める。 トスでサーブ権を取らなかったチームはサーブ権が移って来たらサーブ順2番の選手がサーブを打つ ※サーブ権が相手から自分のチームに移って来るたびに時計回りにポジションが一つ動く(ローテーション) ダブルコンタクト(ドリブル) 一連の動作の中においてボールが身体の2か所以上に連続的に接触しても反則ではない。(1回目の接触のみが対象) サブスティテューション(メンバーチェンジ・選手交代) 各セットごとに最大6回できる。 ペネトレーションフォルト(パッシングザセンターライン) 片足(両足)の足首より下の部分がセンターラインを完全に越えて相手コートに触れたら反則となる ※上記以外の身体の部分は相手コートに触れても反則とはならない。しかし、相手選手のプレーを妨害した場合は、インタ

※このルールは、右記の中学生以上のルールと同様にしたときに“相手コートに無理に飛び込んで行って危険だ”ということで、けがの防止のために変更された。

第6条 ネット付近の選手

片方の足(両足)または片方の手(両手)がセンターラインを超えて相手コートに触れても、侵入している片方の足(両足)または片方の手(両手)の二般がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる身体の部分も相手コート上に触れることは許されない。



試
合
中

• スコアラー(記録員)のサーブ順の確認

記録員はサーバーが間違っていないことを確認したら小さくうなずいて主審に知らせる。もし間違っていたらうなずかないで片手を上げて「サーブ順が違います。」と副審に伝える。正しい選手の番号はゲームキャプテンが聞いた時に伝える。

※上記の処置は、「小学生バレーボールではサーブ順の間違いを起こさせない」という発達段階を考慮し教育的に配慮した取り扱いである。

• 各セットの点数

セットは(第3セットを除き)、最低2点をリードし、先に21点を得たチームが取る。20-20の同点になった場合、(22-20、23-21のように)2点のリードが得られるまでプレーは続く。

セットカウントが1:1のタイになった場合、第3セットは、最低2点をリードし、15点になるまで続けられる。勝ちとなる。また3セット目は15点を2点差をつけて取った方が勝者となる。なお3セット目はどちらか一方のチームが8点取った時にチェンジコートをする。

試合は、2セットを取ったチームその試合の勝者となる。

※サイドアウト制からラリーポイント制にルールが変わった時に、「小学生の試合では何点までにするのがよいか」という議論となり試行錯誤の結果「21点」となった。

フェアの反則となる。

• スコアラー(記録員)のサーブ順の確認

記録員はサーバーが打ったその時に「サーブ順が違います」と副審に伝える。間違いに気づいていてもサーブを打つ前には副審に伝えない。

副審は通告があったら笛を吹いてラリーを止めて記録用紙(スコアシート)を確認して、選手を正しい位置に戻し、点数等を確認して、試合再開の合図を主審に送る。

• 各セットの点数

セットは(最終第5セットを除き)、最低2点をリードし、先に25点を得たチームが取る。24-24の同点(タイ)になった場合、(26-24、27-25のように)2点のリードが得られるまでプレーは続く。

セットカウントが2-2のタイになった場合、最終第5セットは最低2点をリードして15点まで続けられる。なお3セット目はどちらか一方のチームが8点取った時にチェンジコートをする。

また、5セット目は15点を2点差をつけて取った方が勝者となる。なお5セット目はどちらか一方のチームが8点取った時にチェンジコートをする。

試合は、3セットを取ったチームがその試合に勝利する。

※中学生の場合は3セットマッチで、1-1のタイになった場合、最終第3セットは、

・不法な行為に対する罰則の与え方
 ルールブックのP125の「不法な行為に対する警告と罰則段階表」に準じる。ただし、コート内及びベンチにいる選手(児童)がこの表に該当する行為をしたときには、最初に教育的指導を与え、その後試合中に同一チームの選手が再度行った場合にはこの表に従って罰則等が与えられる。しかし、ベンチスタッフ(大人)の場合には、罰則段階表に従って罰則等が与えられる。
 ※発達段階を考慮した教育的配慮

最低2点をリードして25点になるまで続けられる。(チェンジコートは13点で行う。)

・不法な行為に対する罰則の与え方
 ルールブックのP125の「不法な行為に対する警告と罰則段階表」に準じる。

2 「小学生バレーボールに関する疑問 Q & A」

◎ 試合・プレーに関すること

(1) QUESTION

サーブは主審のサーブ許可の吹笛から8秒以内に打たなければいけないが、サーバーが6、7秒ほどたっても打ちそうになれば、もう一度サーブ許可の吹笛をしてやる。

ANSWER

誤りです。小学生であっても主審の吹笛から8秒以内にサーブを打たなければなりません。

(2) QUESTION

監督が立ち上がり、ハンドシグナルを示してサブスティテューション(メンバーチェンジ)を要求しました。選手はまだベンチの一番端に座っていましたが、副審は監督のハンドシグナルを見て笛を吹き要求を受け入れました。さてこの中に間違った事柄が2つあります。その2つとは？

ANSWER

①監督がハンドシグナルを示してサブスティテューションを要求した。

サブスティテューションは交代する選手がサブスティテューションゾーンに入ることで選手交代の要求をしたこととなります。ハンドシグナルを示しただけでは交代の要求とはみなされません。

②選手はまだベンチに座っているのに、監督のハンドシグナルを見ただけで吹笛をしてサブスティテューションを受け付けた。

①でも述べたようにハンドシグナルを示しただけでは交代の要求をしたことにはなりません。交代する選手がサブスティテューションゾーンに入るのを見て吹笛をしなければなりません。もちろん監督はハンドシグナルを示す必要はありません。

※ “サブスティテューションゾーン” についてはルールブック P120 の図を参照してください。

(3) QUESTION

各セット間のタイムアウト中(3分間)には選手はエンドライン後方のフリーゾーンでボールを使って練習することができる。この練習にはベンチスタッフ(大人)が加わってもよい。

ANSWER

正解です。各セット間にボールを使うことはルールで認められています。中学生以上はエンドライン後方も含めた自分のコート側のフリーゾーンを使ってよいとされていますが、小学生の場合は技術的に未熟なこともあり、エンドライン後方と限定されています。また同じ理由で、大人がつくことも求められています。中学生以上では大人(ベンチスタッフ)がつくことはできません。

※補足：各セット中の30秒間のタイムアウト中は、ランニング程度の軽いウォームアップはしてもよい(小・中以上とも)が、ボールを使うことは認められていません。

(4)QUESTION

テクニカルタイムアウトは、1、2セットはリードするチームが11点に達した時に、3セット目はリードするチームが8点に達したとき、テクニカルタイムアウトが自動的に適用される。これは選手の健康管理と安全に配慮したものである。テクニカルタイムアウト中は、小学生の給水場所はベンチ横に決められています。ベンチスタッフは健康管理を目的に選手のところに行くことができます。基本、テクニカルタイムアウトは、1セット1回です。

ANSWER

正解です。季節や気候等の状況によっては1セットに2回に増えたり、テクニカルタイムアウトを取らなかったりする場合があります。このことは大会運営側が判断して決定します。また、審判がテクニカルタイムアウトになる点数に気づかずにゲームが進んだ場合は、気づいた時点でテクニカルタイムアウトを取る。それが3セット目の場合はチェンジコートをさせ、その時の点数で、テクニカルタイムアウトを取りその後試合を再開します。

※補足：中学生以上の大会では、テクニカルタイムの時ベンチスタッフが選手のところへ行っても指示をすることはできません。また、タイムアウトやサブスティテューションの要求よりもチェンジコートの方が優先されます。要求はテクニカルタイムアウト後に受け付けてください。

◎ 服装等に関すること ※(5)～(8)については競技委員会が判断する内容です。

(5)QUESTION

コートの下に着ている服がベンチスタッフ全員揃っている場合は、冬の時期に着る防寒のためのコートは色や長さ(丈)が違っていてもよい。

ANSWER

正解です。小学生の大会では、防寒着の中の、揃っている服装の上から着るトレーナーやセーターの色やデザイン等も違っていてもよいとなっています。

(6)QUESTION

大会前の打ち合わせ会の時に、「試合以外で着る練習着も揃える」と他のチームから聞きましたが、どうですか？

ANSWER

間違いです。練習の時の服装は、練習に支障がない限り、色やデザイン等をそろえる必要はありません。

(7)QUESTION

冬の寒い時に長袖のシャツを着てその上から半袖のユニフォームを着てもいいですか？

ANSWER

冬の時期は、半袖のユニフォームの下に長袖のシャツを着てもいいです。ただし全員が統一されていなければなりません。例えば長袖を着ている人と着ていない人がいる、長袖のシャツの色が違う人がいる、何人かが襟元からシャツが上に出る(ハイネック)などのような場合は認められません。

(8)QUESTION

ノースリーブのユニフォームは着てもいいですか？

ANSWER

小学生はノースリーブのユニフォームを着ることは認められていません。理由は、盗撮などの犯罪等から選手(児童)を守るためです。